

鍛 鍊 坂

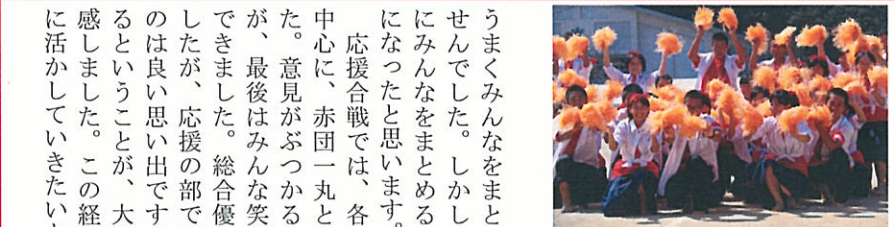


奈 留 高 校 だ よ り 学 校 第 79 号

第五回小中高合同体育大会を終えて

本田総一郎

九月二十三日(日)に、第五回小中高合同体育大会が実施されました。前日に小雨が降りましたが、本番当日は秋晴れに恵まれました。今回は、小中高一貫教育が導入され五年目の節目の年でもありました。組体操『奈留魂』では、例年と趣向を変え、集団演技は男女共によさこいソーランに挑戦しました。高校三年生の女子が中心となり、ダンス作成に早い段階で取り組みました。また、フィナーレでは中学一年生が精一杯旗を掲げてくれました。今回の合同体育大会の成功は、生徒一人ひとりの頑張りによるものだと思います。大会スローガンであった『笑(えみ)』。児童生徒 観覧していただいた全ての方々が笑って帰られたと思います。保護者・地域の皆様、ご声援ありがとうございました。



うまくみんなをまとめることができず、にみんなをまとめることができるようになったと思います。

体育大会を終えて
三年一組 南集

私は、今回赤団の団長をしてとてもよかったです。と思います。

「笑」というテーマのもと、全員頑張っていたと思います。結団式での行進練習では、小学生にどう伝えればよいか分からず、

体育大会を振り返って
三年一組 矢口雅也

私は今回、青団団長を務めさせていただきましたが、それは貴重な経験になりました。私は小中共に団長を務めてきました。しかし、高校の団長は、今までの体育大会で一番責任重大だと思いました。小中高一貫教育になってから、小学生、中学生もまともななければならない。その責任の重さが私の力を最大限に引き出し、最後まで頑張ることができたと思います。また、後輩達からのサポートもあり、小中高全体がまとまり、素晴らしい体育大会になったと思います。ついて来てくれたみんな、ありがとう。来年は私の姿を見ていた後輩が、より良い体育大会を目指して頑張ろうと思っています。

平成 24 年度文化祭

『Shine』輝く明日へ』

文化祭実行委員長 橋口ひかる

九月九日(日)に開催された奈留高校文化祭は、皆様のおかげで大盛況のうちに幕を閉じました。今年の文化祭のテーマ『Shine』輝く明日へ』の通り、一人ひとりの笑顔が輝いた思い出に残る文化祭でした。

こうして、文化祭を無事行えたのは私たちの力だけではなく、地域の方々の支えがあったからです。また、ご来場下さった皆様にも感謝しています。本当にありがとうございました。



三年一組



二年二組



一年一組



二年一組

『念願の最優秀賞』

私達二年一組は今年度の文化祭において、合唱部門、クラシック部門共に最優秀賞を頂くことができました。

クラシック企画「白雪姫と七人の登場人物」の練習を始めた頃は、全くうまくいかず、不安ばかりが募りましたが、先生方のアドバイスを参考にしながら、少しずつ形作っていきました。一致団結の末に頂いた最優秀賞(W)は、最高の夏の思い出になりました。

二年一組 城田静希

奈 留 高 校 部 活 動

新人戦結果報告!!

☆陸上競技部☆

岩本・江村・川中が出場

☆軟式野球部☆

〔第四十回九州地区高等学校軟式野球長崎県大会〕

第一試合 対 五島南 (4-1)

第二試合 対 北松農 (4-3)

☆バドミントン部☆

【地区新人戦】

■団体戦

一回戦 対長崎玉成 (勝) (3-2)

二回戦 対長崎女子 (負) (0-3)

■個人戦(複・単)

松竹・葛島組 二回戦敗退

道脇・夏井 森・福島組 一回戦敗退

葛島・道脇 二回戦敗退

松竹・夏井・森 一回戦敗退

二十三年ぶり二十二年目の優勝 二十三日目の九州大会出場

～体育祭について～

Krystal L. Korber

Sports Day in Japan is very different from the sports event day in Canada. In Canada, schools have Track and Field Day. There are relay races, high jump and other sports. But there is no dancing or teams, and the event is only for students and teachers. I enjoy the Sports Day in Japan more, because I like the teams and the dances are great.

ALT クリスタル先生

日本の体育祭はカナダとは全然違います。カナダには、「陸上競技の日」というものがあります。リレーや走り高跳び等を行います。ダンスなどはなく保護者の方々も見に来ません。私は、日本の体育祭の方が好きです。理由は、チーム競技が大好きで、ダンスも素晴らしいからです。

11/3	土	土学
4	日	県総文祭
6	火	校内マラソン大会
21	水	人生の達人セミナー
23	金	五島地区PTA研修会
29	木	期末考査(～12/4)
12/4	火	人権同和教育
14	金	小中高合同百人一首大会
15	土	土学
21	金	2学期終業式
25	火	冬季補習前期開始

新生徒会執行部紹介

十名の新生徒会役員が任命されました。頼もしいメンバーで構成されているので、行事の企画・運営はもちろん、学習面・生活面においては奈留高生のよき手本になってくれると思います。高校だけでなく、小中のリーダー的存在としても活躍してくれる事を期待します。



- 会長 岩村広司
- 副会長 京慎平、道脇舞乃
- 書記 大久保華、神崎なつみ
- 会計 浜村祐美、松下一平
- 執行委員 月川陽太
- 伊東未紗都
- 夏井友菜

学年だより

一学年から
主任 小佐々 慎也

季節の移り変わりは早く、山々が色づき始める季節となりました。朝夕は肌寒さをおぼえ日に日に秋の深まりを感じていきます。さて、早いもので入学して半年が過ぎました。高校生としての生活リズムに慣れてきた頃ではないでしょうか。二期は文化祭、体育大会、新人戦など多くの行事で一年生でありながら、奈留高生としての活躍を見せてくれました。しかし、その一方で中間考査の成

績はあまり芳しくなく、欠点保有者が大幅に増加する結果となりました。学習時間の割に結果が伴っていないという生徒も少なくないと思います。結果が伴わない学習法はいくら続いても効果がありません。自己流で学習するのではなく、まずは担当の先生方に相談し、基礎基本が定着するような学習を行ってください。今後のみなさんの成長に期待しています。

二学年から
主任 種川 彰子

入学から一年六ヶ月。これは三年間の高校生活の半分を終えたことになりました。入学当初は不安が見えた表情に、今では自信と責任感がみなぎり、頼もしいばかりです。さて、二年生も就職を希望している生徒は一年後に勝負の時を迎えることとなります。就職難と言われ、若者の早期離職が問

題とされている昨今ですが、どんな状況でも逞しく生きていくために、ご家庭でもお子様の進路志向について、また社会人としての心構えや在学中及び卒業後の生活のあり方について今一度お話しいただきますようお願いいたします。人生の先輩である保護者の方からの言葉が、生徒にとって何よりの刺激になるものと思えますので、どうぞよろしくお願いたします。

マラソン大会のお知らせ
11月6日(火)雨天時7日
校内マラソン大会
〈コース〉旧奈留小～デイトビル～スターミカ～旧奈留小

たくさんの方のご協力とご声援をお願い致します。

家庭クラブより

家庭クラブでは、三年生の被服選択者と家庭クラブ員を中心にティンボックスカパーを作りしました。体育大会当日、来賓の方々に配り、大変喜んでいただきました。また、これからの家庭クラブ活動として、お菓子作りの講習会を実施しようという計画です。決まり次第お知らせいたしますので、ぜひ参加してください。

三学年から
主任 上戸 秀龍

最近、北方謙三の『三国志』を読み始めました。歴史科の教員でありながら大変恥ずかしい話なのですが、学生時代から幾度も挑戦しながら未だに三国志を読破したことがありません。多くの人たちがその壮大な歴史ロマンに魅了されてきたこの大作を、今度こそ読破しようと意気込んでいます。物語のなかでは、大望を胸に抱いた劉備玄德が乱世の渦中に勇ましく飛び込んでいきますが、そんな姿は現在の3年生の生徒達の姿とも重なるように感じます。九月十六日から始まった就職試験を皮切りに、生徒達はいよいよ夢実現に向けた決戦の時を迎えています。今、日本はいつ終わるかも知れない深刻な不況のなかにあります。そんな厳しい社会のなか、今、彼らは夢を抱いて飛び込もうとしています。今こそ正念場、生徒・職員一丸となって「全員進路実現」が叶うその時まで頑張り抜きます。地域の皆様、今後とも応援よろしくお願いたします。



校長室から
校長 小林 勝

近年、県内の専門高校の活躍が目覚ましい。各種検定合格で全国トップレベルの工業高校、商品開発や農業クラブの活動がマスコミの話題になる農業高校、地域経済と密着した実践教育活動を実践している。そして専門的な知識や技能を身に付けただけでなく、様々な実体験を通して、働くことを学んで卒業していく。

奈留高校は普通科の高校である。普通科の最大の特徴は、進学にも就職にも適応できるということにある。奈留高校もこれまで大学進学、公務員・一般就職と、生徒の進路実現を果たしてきた。

ところが最近、就職状況が厳しさを増している。何も厳しいのは普通科高校だけに限らないが、就職を前提として学ぶ専門高校と、学問全般・知識中心に学ぶ普通科高校の差は歴然としている。また進学しても、大学生の「就活」はさらに厳しい。いま普通科の高校は、生徒の進路保障という点において、大きな課題に直面している。このような中で、奈留高校はいま何をすべきか。奈留高生はどうあるべきか。その教育活動の特徴を、もう一度見詰め直してみる。

- ①習熟度別・進路別による少人数授業や全員補習制
- ②小中高一貫教育による合同行事や生徒全員による学校行事
- ③完全な全員部活動制

学習、行事、部活動といずれの環境も整い、教師の熱心な指導、生徒諸君の素直な姿勢、保護者、地域の温かい支援と、学びの必要条件是ほぼ満たされている。あと必要なものは何か。それは生徒諸君の「志」である。自らの「成長したい」という思いこそが、日々のすべてを糧として、厳しい時代を生きていく力を育ててくれる。

そして「少年よ、大志を抱け」の言葉のごとく、若者の志を育むのは大人の責任でもある。厳しい時代だからこそ、学校・保護者・地域が一体となって、若者の志を育てていかなければならない。

職員一 高留 奈留



栗山 先生

「身近にあるものへの感謝」

奈留高校に赴任して早くも半年が過ぎ、ようやく奈留島での生活にも慣れてきたところである。この半年間、海の碧さ、無数の星が瞬く夜空、群生するホタルの命の光など豊かで美しい自然に出会い、たくさんの感動をもらいました。

また、私は結婚して2度目の単身赴任になるのですが、(1回目は新婚時代の1か月程)こんなに長く家族と離れての生活は初めてのことで、転勤当初は、留守宅のことが気がかりだったので、最近では立場が逆転し、娘から、ホームシックにかかっているかと心配して電話がかかってきたり、台風が来たら、大丈夫かと家族からメールが来たり、家に帰るたびに家族が港まで送り迎えしてくれたり、家族の気遣いに感激しています。今回離れてみて改めて、家族の大切さありがたさを実感しています。

皆さんも卒業すると島を離れ一人暮らしをする人が多いと思いますが、その時奈留島での生活がいかにかけがえのないものであったか気づくことでしょうか。日頃から、自分の身近にあるもの、今いる環境、家族を始めとした周りの人々に感謝して、日々を大切にしてもらいたいなと思います。